



美原 & 美原東

ロイヤル・ニュース

MIHARA & MIHARA-HIGASHI ROYAL NEWS 2008 SUMMER Vol.15

○平成20年7月15日発行(年2回) ○発行人/野瀬泰良 ○企画・編集/(株)関西メモワール ○発行/(宗)宙咩教美原霊園管理組合

開園十五周年を祝って

(宗)宙咩教
野瀬泰良代表
(株)丸長石材
川下眞一会長

新時代の霊園というイメージ作りが始まったのは



野瀬 代表

野瀬 霊園の開園以来、丸長石材様にはずいとお世話になりました。お陰様で、この年度で美原ロイヤルメモリアルパークが十五周年を迎えることができました。本当にありがとうございます。



川下 会長

川下 それはおめでとございます。私共は霊園の開園と同時に販売指定業者とならせていただきました。それからもう十五年が経ったのです。この間に平穩無事に墓石の販売ができましたのも、お墓を購入して下さったお客様や、霊園事業関係の皆様方によるご厚情、ご支援の賜物と深く感謝いたします。

野瀬 私もまったく同じ気持ちです。ところでこの十五年を振り返れば、会長との様々な思い出が蘇ります。いつからか、美原ロイヤルが関西の霊園を新時代に向けて先導しているなんて業界から言われるようになって、それはとんだ買いかぶりだと恥ずかしく思ったものですが、今思えば会長のガーデニング墓地の発案がそのきっかけでした。

も誰かが買うまで様子を見よう、と尻込みされるお客様が多くて、最初はなかなか契約が進みませんでした。売れ出すとあつという間に完売になってしまいましたね。(笑)

野瀬 それから坪庭付きの和風庭園墓地とか、お墓の自由なデザインを競い合う洋風庭園墓地だとか、収納庫付きの新しいお墓だとか、生前に故人が大事になさっていたものを石の彫刻で造ったりする企画が始まったのでした。全体から見れば、すべてがそうだったのでありませんが、でも他の霊園に無いものが強調され、霊園美原ロイヤルの特異なイメージが形成されて行ったのでしよう。でもそういうアイデアは、やはり会長の発案によるものが多かったですよ。

川下 それはまた霊園さんがなんでも制限なく私共石屋のアイデアを受け入れて下さったことの結果なのです。霊園から打ち出されたアイデアも、随分取り入れましたよ。思うに、今の霊園代表が異業種からこの業界に來られ、旧来のしがらみが無いために、ただ純粹にお客様の為だけを思って行動されたからかと。

野瀬 そんなに言っていたら、穴の中にでも隠れなければなりません。

川下 実際、これだけ管理運営をしつかりなさっている民営霊園は、全国でもそうないのではないかと思います。管理料の使用実態を公開する霊園など、他に聞いたことがありませんから。

野瀬 管理運営が他よりも優れているなんて思っていると、慢心してすぐ駄目になってしまうと思うのです。何かひとつでも、前年より、前



モダンな石像が墓参者に微笑む美原東のエントランス

月より、前日より改善している、そんな事業を目指さなければ。それには現状に甘んじることなく、自己への厳しさを常に持ち続けることが肝要なのかなと。

と営業社員には常に言っています。そう言えば、霊園の代表も開けば墓地を使用なさっているお客様のご先祖を毎日供養なさっているとか。野瀬 霊園事業者という使命の重さを考えるなら、それは当然だと思ってくらいます。私たちの事業は、多数のお客様のご先祖への感謝や、親しき人を失った哀しみや、故人の冥福を祈るお気持ちの上に成り立っています。ですから私はこの事業で日頃お世話になっている方や、墓地を購入された各家のご先祖の霊牌供養をさせていただくのです。霊牌は二柱、心を込めて招霊させていただきます。こうすると、両霊園で二千三百軒を超えるお客様の霊牌は、私一人なら二三百柱ずつ招霊しても八日もかかる訳ですからそれを果たして毎日供養していると云えるのかどうか分かりません。ただそれでお客様がご先祖の守護の霊波を受けられ、少しでも現世利益(やりやく)を受けて下さるのなら、とは常に思うところです。

川下 そのような心懸けが、あらゆる事業に共通する経営理念の基なのでしよう。事業経営とは単に金儲けや収支管理ではないはずなのに、品質表示改ざん事件や、産地偽装事件などが矢継ぎ早にニュースとなる時、日本の企業経営者は、その社会的使命を忘れてしまったのか、と思ってくらいます。

野瀬 日本の歴史を見れば、経済の発展とともに国民は、心を充たさず物欲を満たして参りました。五官には感じられないからと現象の奥にある物事の本質から目を遠ざけてきました。そのつけが今来ています。しかし今後、地球上の資源の枯渇とともに飽食の時代は終焉するでしょう。人間の幸福はモノにあるのではなく、ココロの在り方にあるのだと気づく時代が戻って来ることを望みます。時間が参りました。来年度は美原東ロイヤルが拡張に入ります。その節は丸長石材様にはご指導、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

川下 これからも霊園、美原ロイヤル、美原東ロイヤルの発展を祈っています。こちらこそ、ありがとうございます。

お墓の考え方は、どんどん自由に、ますますおしゃれに。

マイホームにこだわるように、自分らしいおしゃれを楽しむように。お墓づくりに関しても、デザインにこだわりたい、墓地にもこだわりたい、そんな方が急増しています。オリジナル墓についての希望も、「亡くなられた方の好きなものをモチーフにした」「好きな音楽が流れるようにしたい」こだわりはさまざま。

~お墓のことなら~
株式会社 丸長石材
 〒547-0022 大阪市平野区瓜破東3丁目1-17
 TEL.06(6709)4471 FAX.06(6790)5053
 営業時間/AM9:00~PM.6:00(定休日:水曜日)
 〒547-0021 大阪市平野区喜連東3-5-6



第六回 桜井の別れ

園地主
（宗）宙助 代表役員

野瀬 泰良 たいら

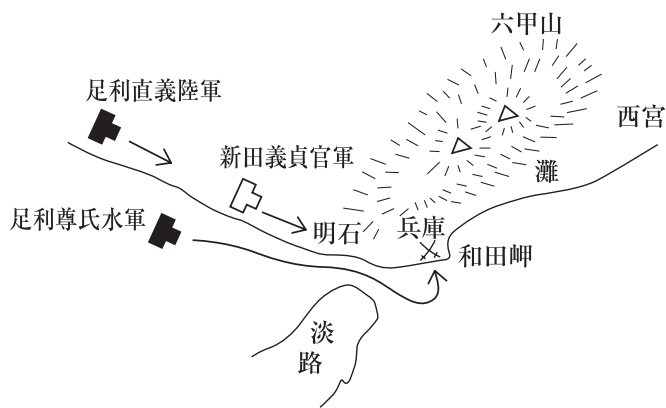
尊氏、遂に足利家を武家の棟梁と認める院宣を入手

三三三六年、五月（現在の太陽暦では六月）、京の公家（くげ）達は顔色を失い、ただただ慌てふためくしかなかった。正月の官軍の大勝利の後、西海に敗走したはずの足利尊氏（たかうじ）が、思いのほか早く九州で勢力を挽回し、既に前月には弟の直義（ただよし）に数万の兵を預けて山陽道を京に向けて出発させ、自らも大船団率いて海上を出発し、間もなく兵庫で水陸両軍が合流し、一気に京に攻め上ろうとしているとの知らせが入ったからである。

先の戦で宮方勝利に貢献した北畠顯家（あきいえ）率いる奥州軍は、既に故郷の多賀城に帰還した後だった。敗走した尊氏の後を追ひ、九州を目指した筈の新田義貞（よしさだ）率いる三万の官軍は、手始めに播磨の赤松を徴らしめようと始めた白旗城の包圍戦が、思わぬ籠城側の抵抗にあつて長く釘付けとなつていたので。今京にいる官方の軍勢と言えば僅か千名余りの楠木勢だけである。天皇は義貞率いる官軍に直ちに京に戻れとの命令を下された。

陸上から、海上から、これほどの大軍事デモを見せる尊氏の目的とは何だろう。京の包圍戦のとき、楠木、北畠、新田の連合軍に不意を突かれて足利軍は総崩れとなった。京での長滞陣の理由だった「新田の与党を討ち、天下を平定せよ」と命じる光厳上皇様の院宣（いんせん）、即ち「足利家を武家の棟梁（とうりょう）と認めるお墨付き」を得るのを尊氏、直義らは一旦諦め、多数の味方を失いながら、京に近い足利領地、西の丹波篠村（今の亀岡市）をさして退却した。

院宣を携えた使者が遂に上皇様の元を出立し、西国街道を西に向かった、との情報を得ると、篠村を出発



し、六甲山東麓を南下し、使者を迎えるため西宮に進出した。だがそこでも待ち伏せしていた楠木勢の手痛りてほうほうの体で瀬戸内海に逃げ出さねばならなかった。

だが気まぐれな幸運の女神は、今度は絶望の淵にある尊氏に微笑んだのだ。歴史のその瞬間（とき）ともなる二月十四日、尊氏が全軍を室の津（兵庫県たつの市）に集結させ、足利再興の方策を練る軍議を行つて、たときに、なんと上皇様の使者が、入手を諦めていた院宣を携え、尊氏の陣にたどり着かれたのだ。吉川英治の名作「私本太平記」のクライマックスシーンでもある。

後は天皇が自らの敗北を認めら

れ、尊氏に將軍宣下があれば目的を達することができるのだ。そのためには新田などに比べ足利の圧倒的優位を世に示すしかない。將軍になる切符を手にながらも尊氏は京

には返さず、一旦は九州に落ち、体制を挽回することにしたのである。

後醍醐天皇の政治改革に不満を募らせる国民

足利尊氏は後日京に幕府を開くのだが、思うにその時、次のように述べ懐いたのではなかったか。もし九州から京に攻め上つたあの時に、建武中興の行き詰まりを陛下が自らの失政と反省され、敗北を素直に認められていたのなら、楠木正成も、新田義貞も、北畠顯家も、むざむざ命を落とさずに済んだものをと。

確かに鎌倉時代末期、貨幣経済の発達とともに封建制度を支える莊園社会からはみ出す集団が多数誕生し、武家たちが生計の拠り所とした農業集団の政治的優位を壊して、新しい時代に適う体制を望んだのは、後醍醐天皇だけではなく、時代の変化を膚で感ずる国民の総意だったと言ふべきだ。

だが建武の政治改革が始まって見れば、国民の目には世が前進するどころか、逆に古代の律令社会に戻るかに見えたのだ。「いくら鎌倉幕府を倒そうが、最早公家が支配する大昔に戻れる筈もなからう」と尊氏は苦笑した。経済の発展は国民の物欲を覚醒させる。突き詰めて言えれば、国民の不満は常に富の分配の不公平から来るのだ。

「武家や庶民の不満を鎮めるために力づくで富を再分配できるのは、日本全国を見回してもこの尊氏しかないではないか。だから最強の武將が將軍となり、安定した武家社会になるのを望むのは、何も足利と尊氏との武將ばかりでなく、それが庶民の、否、天の声だったのだ」と尊氏は一人つぶやいた。

「太平記」とは対局的に室町幕府側から記述された歴史書「梅松論」によれば、官方にいながら、このような

空気をよく読んでいたのが正成だったと、だからこそ正成が誰よりも天皇と尊氏の話し合いによる解決、即ちもしも天皇がご納得の上で平和的に行われるならば、足利氏に幕府を開かせることを容認していた、と

追い越し、退却する官軍からも先陣の軍船の影が遠望されるようになってきたときに、敵の水軍が先回りして兵庫に上陸すれば、この官軍三万の兵を前後から挟み撃ちにして殲滅（せんめつ）できるのだ、と義貞気づいて愕然（がくぜん）となった。

大楠公 落合直文 詞

青葉茂れる桜井の
里のわたりの夕まぐれ
木（こ）の下蔭に駒とめて
世の行く末をつくづく
偲ぶ鎧（よろい）の袖の上（え）に
散るは、涙か、はた露か



史跡「桜井の駅跡」 楠公父子別れの記念碑が建つ
大阪府三島郡島本町青葉 JR島本駅前

正成に兵庫出陣の命が下る
一方播磨の赤松氏を攻めていた新田義貞は、朝廷の退却命令を受ける前に、足利直義の何万という大軍が姫路に迫っていることに気づき、直ちに城攻めを取りやめ、東に退却しながら、足利軍との決戦場所を求めていた。

挟み撃ちに会うのを避け、官軍が足利軍と対等に決戦を挑むには、敵が上陸するその前に官軍は兵庫を駆け抜けておかなければならなかった。義貞は行く手を阻む前方の明石の隘路（あいろ）を、苦虫噛むように睨（にら）みつけるのだった。

朝議の結果、京の警護にあたっていた正成以下、楠木兵千名の者たちに、直ちに兵庫に出陣するよう命令

が出た。正成の進言も空しく、天皇は尊氏との話し合いには応じられなかった。天皇に建武の政治改革への不満の声が届かなかった訳ではない。ただ天皇には国民の多数意見を無視してでも、我欲にまみれた国民が忘れ去った、神武建国以来の国体の理念を自分が守らずに誰が守るのだ、という強い使命感をお持ちだった。即ちそれこそが、大乘仏教や、儒教から発展した朱子学や、我が国古来の神道など、総ての宗教や哲学が共通して説くところの「中（な）み（み）な（な）か」への帰依だったのだ。

だからと言って多くの人が考えるように、このとき後醍醐天皇が正成に「兵庫にて義貞と共に足利と決戦せよ」と命じられたとは、筆者には到底信じ難い。何故なら尊氏が、本当に官方の武將たちを皆殺しにしたいのかどうかも確認できない状況で、味方の兵を大きく損なうだけの、足利の大軍に正面切って総攻撃を挑むことに、どんなメリットがあるだろうかと疑問に思うからである。

天皇は官軍を無傷で京に呼び戻した上で時間を稼がれ、奥州の北畠に再度上京させるべきではなかったか。数には数で対抗し、天皇には尊氏の幕府樹立の野望を絶対に粉碎しなければならなかった筈なのだ。筆者思うに、正成への命令は、僅か千名の楠木軍などいかに犠牲者を出そうが、足利水軍の上陸を自ら楠木となつて水際で抑止し、その間に三万の官軍を無傷で京へ戻せ、というものであったのでは、と。

正成、観心寺住職に楠木家の後事を託す

五月二十二日、蒸し暑い曇天の梅雨空の下、楠木勢千名は京を立ち、西国街道を一路兵庫へと進んだ。急ぐ出征ではあったが、正成は摂津の国に入るや、西国街道から桂川、淀川を渡って南に進む東高野街道が分岐する桜井の駅（三島郡島本町）に宿営した。

その夜正成は、「この戦には、これほどの人数は要らぬ」と年若き者五百名ばかりを選び、「夜が明けたら南河内に帰れ」と厳命したと言われる。兵庫に赴く者は誰一人生きて帰れぬ、と予感する正成なら、全員を道連れにするのは忍びなかっただ

ろうと想像できる。確かに兵庫に赴く楠木兵の殆どが生還できなかった。「太平記」によれば、正成が桜井から帰した者の中に長男の正行(まさつら)がいた。正成が嫡男と別れを惜しむために、街道の分岐点で宿営したことになる。この楠木父子の別れの場面が「太平記」では一番の感涙シーンだ。

「既に父は討死を覚悟せり、いつの日か忠君の(天皇に忠義を尽くす)志を継いで賊を討て、それが何よりの親孝行ぞ」と正成が嫡男を諭す場面である。

また戦前、多数の国民から愛唱された、明治の国文学者、落合直文の詞による「大楠公」(だいなんこう)正成の尊称)も、このエピソードを哀傷の感込めて歌っている。

ところが、現代になって南河内、観心寺の住職、瀧覚(りゅうかく)の日記を証拠に、この夜、正成と瀧覚が桜井の駅で会っていた、とする説が唱えられるようになった。正成がわざわざ桜井に宿営したのは故郷の菩提寺住職との待ち合わせだった、とする説は、筆者には「太平記」の涙のロマンよりも遙かに合理的で説得力がある。

初めは楠木兵が足利軍に玉碎戦を挑む自殺願望の作戦ではなかったと筆者は思っている。それはそれとして、この戦最終的には官軍側が敗れるものと正成が予想していたことは違いない。だからこそ正成は自分の生還の確率が、これまでとは比較にならないほど低いことも知っていただろう。

であれば「勅命」とは言え、新將軍とは正面切つて争うのであるからこの戦に破れるならば、楠木は城も領地も没収されよう。もし戦場から生還しても、必ず捕らえられ、首刎(は)ねられるに違いない。そこで御坊にお願いだ、そうならば途方に暮れるだろう私の妻子をどうか助けていただきたいのだ。」と正成は菩提寺、観心寺住職に涙ながらに懇願したのではなかったか。

決戦の前日、正成よりも先に義貞が兵庫に着陣

翌五月二十三日の朝、降り出した雨の中、故郷に戻る者たちに老僧の瀧覚坊を送らせ、残る五百余名の楠

木勢は更に西へと進んだ。騎馬兵も歩兵も全員が片手に槍や薙刀を持ち、逆の腕には麻縄の束やら杭やら戸板を抱えての奇妙な姿の進軍だった。だが一日降り続く土砂降りの雨で思うに進めず、摂津尼崎で再び宿営すること。

幸いにも兵庫の地理は、正成南河内の地侍でありながらもよく精通していた。新興の楠木家は農業を専らとせず、商工業から運送業、警護サービス業と言った今日の三次産業にまで手を伸ばしていた。兵庫では平清盛以来、日宋貿易が続いていたが、正成は唐物(からも) 中国製の武器などを入手するため、過去に何度か兵庫を訪れていた。

だから正成には足利軍が上陸しそうな地点は、恐らく和田岬辺りだと予想することもできたし、そこに戸板の楯を並べ、官軍が無事兵庫を通過するまでの間、矢を放ちながら敵軍の上陸を防ごうと考えていたと想像できるのだ。

正成もむざむざと死ぬつもりではなかっただろう。これからは筆者の

推理、想像である。「官軍が自分たちの背後を西宮方面へと通過しさえすれば、和田岬からさつさと撤収し、後は上陸して来る尊氏軍を引きつける小山にでも籠もろう。その内に直義軍も追って来ようが、我が千早城のように何万の敵に包囲されようが、安全に籠城でき、万一の場合は山の後ろに逃げられる、そんな小山が兵庫にはあるぞ、ひとつあるぞ」と正成の頭の中に浮かんだのは、六甲山の前山、会下山(えげさん)であった。「この作戦なら我が兵の犠牲は最小限に食い止められるだろう」と正成は計算したのではなかったか。

翌五月二十四日、雨上りの晴れ渡った午後、正成はようやく兵庫に到着し、日輪傾く西の空の下、海岸線に目をやると息を呑んだ。なんと新田軍が尊氏軍より先に兵庫に到着した模様で、丸に横一文字の大黒(おおくろ)の軍旗が、生田の森から和田岬まで無数に翻っていたからである。義貞本陣の場所を示す日輪の錦の御旗が海上をにらんでいた。

「しまった、遅かったか」と、作戦が無意味になったことを知った正成は臍(ほぞ)を噛む思いであった。そんな主の心の動揺には頓着せぬかのよう

に、部下達は官軍の無事到着を万歳三唱して喜んでた。

直ちに正成は義貞に会見を申し入れた。今すぐ陣を解いて京に戻るように説得したが、新田が陛下から錦の御旗を預かり、足利が上皇様から院宣を賜ったのであれば、武家の棟梁が足利なのか、この新田なのかの決着を付けるためにも、是が非とも明日はこの浜にて憎き尊氏と決戦するのだと主張し、正成の言に耳を傾ける新田義貞ではなかった。

正成と義貞との話し合いが長引く内に日は沈みだし、沖合の黒い波間に目を凝らせば、敵のおびただしい軍船が鼠の群れのようにうごめき、一方西の塩屋の方に目をやれば、何万もの松明が長い列をつくってこちらに向っていた。

次回の予告

「観心寺、―兵庫からの悲報―」六甲山の裏に脱出路を用意しながら、正成はなぜ全員玉碎の道を選んだのでしょうか。



中世河内の幹線「東高野街道」 八尾市恩地付近

当霊園の墓地購入お客様への専用情報欄である為、
一般には非公開とさせていただきます。

美原ロイヤルメモリアルパークの 経営から生まれた石材店

十余年に渡る霊園経営から、伝統を尊びながらも、因習にはとらわれず、時代の変化を究めながらも、時代を貫く墓参者の心を思う石材店を目指します。

安震ゲルはかもり施工店



株式会社 浪石 なみせき

〒587-0021 堺市美原区小平尾1059-26
TEL.072(363)3414 AM9:30~PM:600



美原東ロイヤルメモリアルパーク ガーデニング区



霊園からのご案内

お盆ウィーク
八月九日(土)〜十七日(日)

水曜日は臨時開館

今年のお盆の墓参の集中日は十日(日)と十三日(水)に分散するものと予想されます。時間的には午前十時から午後一時の間が最も混み合い、駐車場にもすぐに入らずに待っていたり、駐車場にもすぐに入らずに待っていたり、この時間を避けられ、早朝や涼しい夜間にされるとか、墓参時間を一考いただければ幸いです。

照明があるから涼しい夜間墓参がお薦め

駐車場が混み合わなく、涼しい夜間の墓参をお薦め致します。夜間は9時まで照明が入ります。

お盆の生花

お盆の生花は、蓮がついて二対三千円になります。二日に何度も補充致しますが、一時的に品切れになることもあり、出来れば前日までに予約いただく方が良いでしょう。また、夏の間は造花(二対三千円)も考です。

秋季彼岸

九月二十日(土)〜九月二十六日(土)
水曜日は休館です

彼岸の生花

お彼岸の生花は、二対二千円になります。

美原ロイヤル・美原東ロイヤルから、お盆・お彼岸の送迎バスのご案内

平成20年9月(秋季彼岸)						
26	25	24	23	22	21	20
金	木	水	火	月	日	土
通常通り	通常通り	休館日	臨時運行	通常通り	臨時運行	通常通り

平成20年8月(お盆)								
17	16	15	14	13	12	11	10	9
日	土	金	木	水	火	月	日	土
通常通り	通常通り	通常通り	通常通り	臨時運行	臨時運行	臨時運行	臨時運行	臨時運行

8/13(水)は臨時開館致します。

松原駅 発		北野田駅 発	
一便	10:10	一便	9:30
二便	11:35	二便	10:50
三便	13:20	三便	14:00
臨時便	14:40	臨時便	15:20

■詳しくは、美原ロイヤル事務所まで
お問い合わせください。
(072) 363-1114

参加申し込みや参加費は要りません。墓参の折りに自由参加でご焼香下さい。

霊園管理組合主催行事
うらぼん くようえ
第8回 盂蘭盆供養会
■8月13日(水)朝10時半から30分先祖供養堂にて
導師 真言宗 法願寺

霊園管理組合主催行事
うらぼん え
第2回 無縁墓盂蘭盆会
■8月13日(水)朝11時から30分
導師 真言宗 法願寺

佛乗寺永代供養墓
第5回盂蘭盆供養会 第6回秋季彼岸供養会
■8月14日(木) 朝10時半より30分
■9月21日(日) 朝10時半より30分

霊園管理組合主催行事
くようえ
第7回 秋季彼岸供養会
■9月23日(火)朝10時半から30分先祖供養堂にて
導師 真言宗 法願寺

(宗)宙階教美原霊園管理組合

美原ロイヤルメモリアルパーク
美原東ロイヤルメモリアルパーク

●送迎・花・代参予約 TEL.072-363-1114 (年中無休)
●管理料請求などへのお問い合わせ TEL.072-363-9002 (水・日休)

ホームページhttp://www.noseh.com/



大国主大神
顕幽両界を守護し給う

宗教法人 宙階教
宙界神社

〒587-0021 大阪府堺市美原区小平尾1059番地26